

輸出事業計画

※申請者名：ぐんまたまごコンソーシアム、品目：鶏卵

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- (1) 群馬県前橋市に本拠を置く(株)トマルは、ひなから採卵・製造まで一貫した管理を行っており、米国が小売される鶏卵に求めるサルモネラ管理計画に対応できるノウハウを持っている。
- (2) これまでは輸出を行っていなかったが、平成30年に米国向けの鶏卵輸出が解禁になったのを機に、これを新たな販路拡大の好機と捉え、米国FDAに鶏卵包装施設と生産農場の施設登録を行い、令和2年に米国東海岸への輸出を実施し現地日系スーパーで販売を行う事ができた。
- (3) 令和3年7月、(株)トマルのグループ企業である、(株)みさと農場（鶏卵包装施設）、(株)西ハルナファーム（鶏卵生産者）を核にJA全農インターナショナル（株）（輸出事業者）、JA全農たまご（株）（事務局）が加わり、「ぐんまたまごコンソーシアム」を設立。
- (4) 令和5年8月には、(株)トマルグループの(株)トマル白岡エッグステーション（鶏卵包装施設）、(株)茂木のたまご（鶏卵生産者）が構成員として加わり、リスク対策としての体制を強化し、米国向け鶏卵輸出の拡大に取り組んでいる。

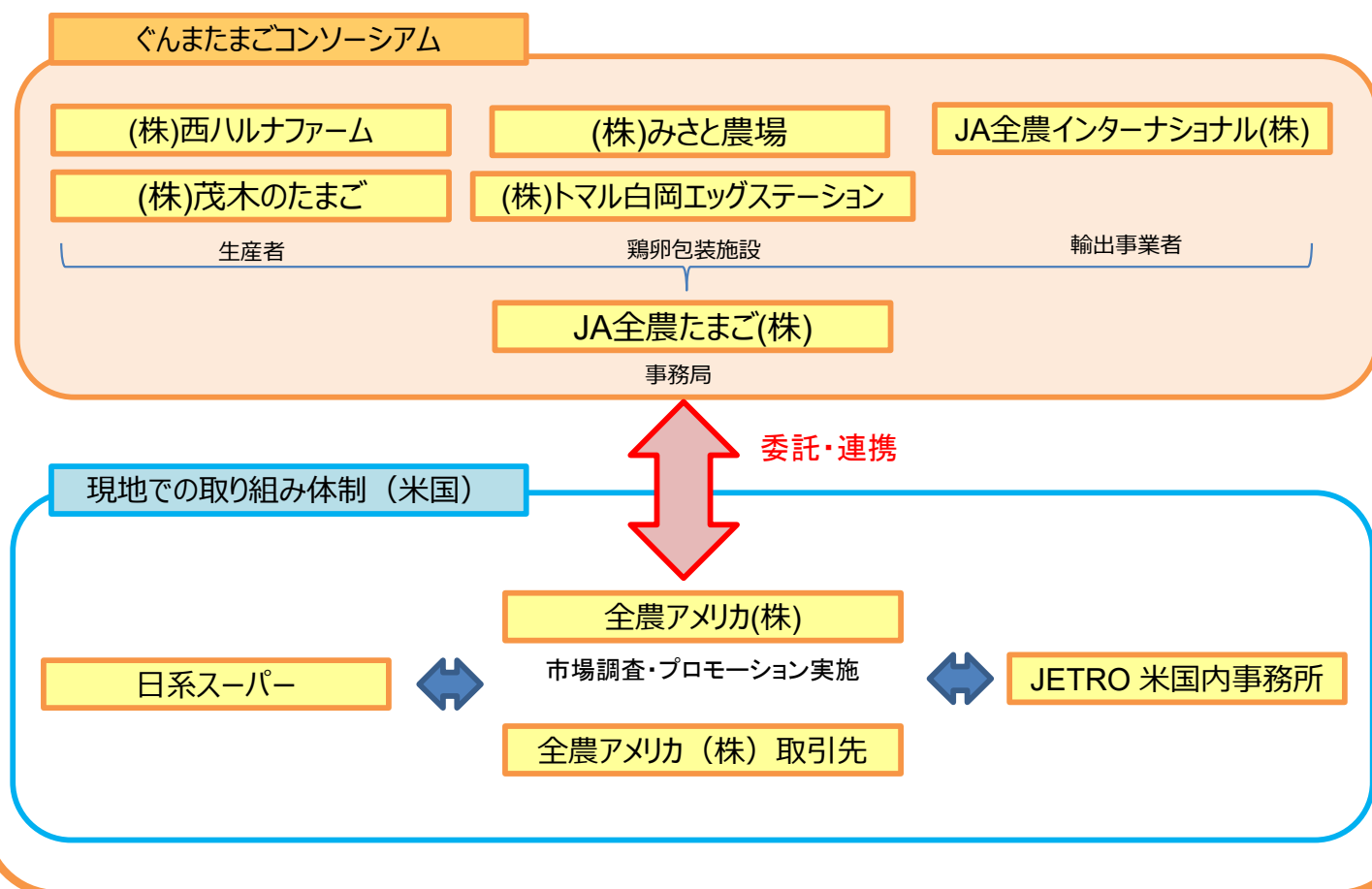
【課題】

- (1) 米国においては、連邦法とは別に州法によるアニマルウェルフェア関連や表示等に関する規制もあることから、ターゲットとする州の規制確認や検疫状況を確認する必要がある。
- (2) 輸送中の環境温度管理や空輸による運賃でコストが掛かることから、販売価格を高くせざるを得ない状況である。
- (3) 鮮度の良いうちに店頭へ届けるため、フライトスケジュールに合わせたAMS（農業マーケティング局）の現地担当官とのインスペクションスケジュール等の事前の調整が重要である。

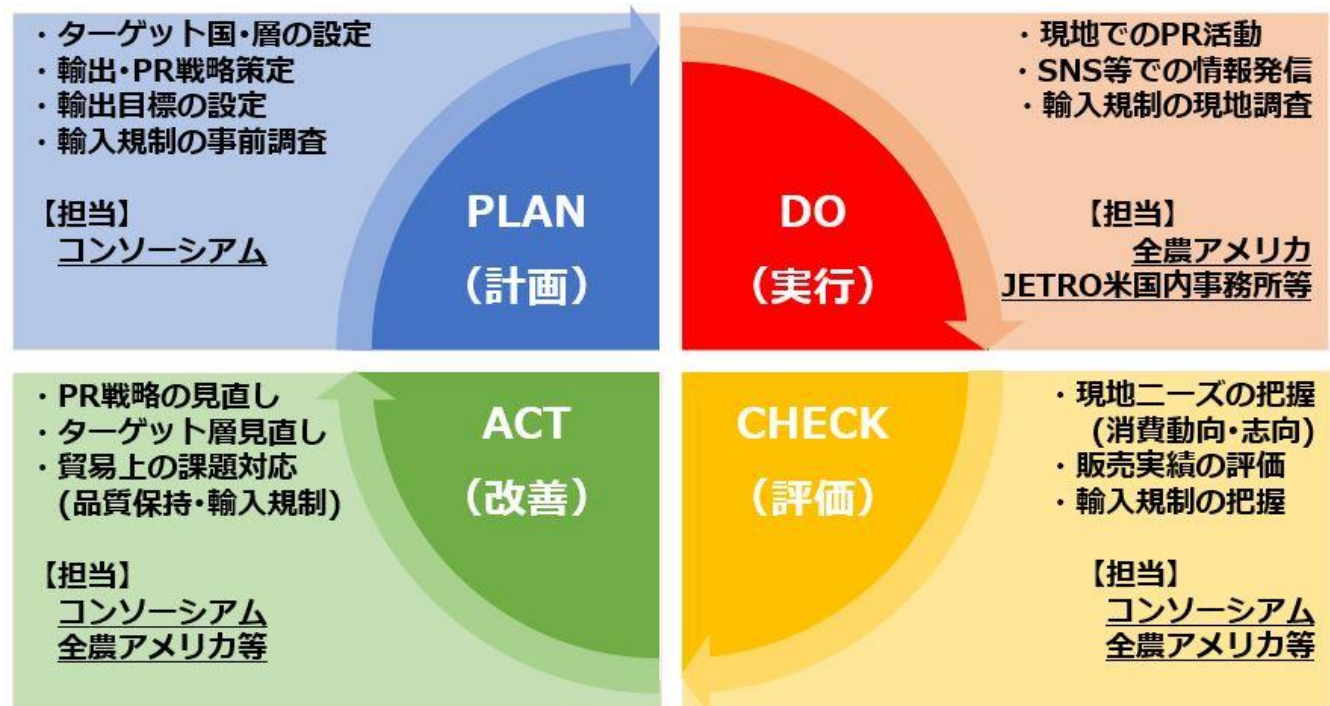
2. 輸出事業計画の取組内容

- (1) 販売拡大のため、現地関係機関と連携し州ごとの規制等把握を行う。
- (2) (株)西ハルナファームにて平飼鶏卵を開始したことから、日系企業が比較的多く進出し日系人が多い市場として期待できるカリフォルニア州を新たなターゲットとして、マーケット調査及び販売促進活動を行う。
- (3) 航空輸送によるコスト面の課題を詳細に洗い出すとともに、コスト低減に向けた船便輸送の可能性を検討する。
- (4) 現地通関業者及び担当官の協力を得ながら、安定的かつ迅速なインスペクション実施の流れを確立し、輸送・保管時の低温保持や現地到着から店舗納品までのリードタイム短縮を図る。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



PDCAサイクル



4. 輸出目標額

	現状 (令和2年度)	目標年 (令和7年度)
輸出額(円)	121,600円	18,561,000円
輸出量(t)	0.022t	23.2t
輸出先国	米国	米国